

医療環境制御センター 医療安全管理部

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	秋野 裕信	平成27年4月～
—	その他の職員	

2. 研究概要

研究概要

医療安全管理に関する研修はおおむね2回以上受講することが医療法で定められており、2016年の医療法改正では特定機能病院の承認要件見直しとして院内研修の充実が求められています。院内研修が医療安全管理に重要とされていますが、研修が実際医療安全確保に役立っているとするエビデンスは欠如したままです。院内研修が実際に医療安全行動に生かされるかを、科学研究費補助金の基盤研究(C)を獲得して研究しています。

医療安全管理には医師からの報告が欠かせませんが、医師からの報告を増加させて医療安全に対する認識を持たせることを目標に対策を講じており、その有効性に開して研究しています。

医療安全管理のためはマニュアルや作業手順の遵守が必要ですが、それらを作成して遵守を医療者に促しても医療事故が絶えることはありません。チームワークやコミュニケーション、リーダーシップなどのノンテクニカルスキルが医療事故防止に重要です。米国医療研究品質局が作成したTeamSTEPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety, チームとしてのより良いパフォーマンスと患者安全を高めるためのツールと戦略)を院内研修に導入し、医療事故発生件数の抑制効果について研究します。

キーワード

医療安全、院内研修、ノンテクニカルスキル、インシデント・アクシデント報告システム、リスク行動

業績年の進捗状況

特色等

本学の理念との関係

本学医学部の理念である「愛と医術で人と社会を健やかに」は、まさに医療安全管理部が目指す目標そのものであります。医療安全管理の根底には「人は間違える」存在であるとの考えがあり、今まで医療事故防止のために人ではなくシステムを改善することに主眼が置かれてきました。しかし、医療の最小単位が医療者という人である限り医療事故が絶えることはありません。よって、人が間違えることを最小限にとどめることが重要になるわけですが、そのためには本学医学部の理念にある「愛と医術」が必要です。患者への愛、ともに働く医療者への愛は、円滑なコミュニケーションや細部への心配りなどチーム医療による事故防止に最も重要な条件であり、そして医術の修練と進歩が医療安全に欠かせないことは言うまでもありません。

「愛」は技術ではなく、医療者のノンテクニカルスキルの根底にあるものであります。しかし、医療者の「愛」に期待するだけでは医療に必要なノンテクニカルスキルの修得は困難です。院内研修を通じてノンテクニカルスキルに関する研修を行い、その有用性を評価して、今後の研修につなげていくことが重要です。

3. 研究実績

区分	総数		インパクトファクター (うち原著のみ)	
	2014～2019年分	2020年分	2014～2019年分	2020年分
和文原著論文	1	0	—	—
英文論文	ファーストオーサー	0	0(0)	0(0)
	コレスポンディングオーサー	1	0	3.128(3.128)
	その他	3	0	10.57(10.57)
	合計	4	0	13.698(13.698)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書 (分担執筆)

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文 (審査有)

b. 原著論文 (審査無)

c. 原著論文 (総説)

d. その他研究等実績 (報告書を含む)

e. 国際会議論文

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書 (分担執筆)

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

a. 原著論文 (審査有)

b. 原著論文 (審査無)

c. 総説

d. その他研究等実績 (報告書を含む)

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演 (口演)

d. 一般講演 (ポスター)

e. 一般講演

f. その他

業績一覧

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

20106001 中川好美、清水隆行、岩崎博道、松山千夏、西村一美、嶋崎さおり、秋野裕信：COVID-19院内感染対策：事務部門としての第1波60日間の奮闘について、第15回医療の質・安全学会、202011

20106002 宇野美雪、寺崎和代、井上歩美、田中裕生子、福井邦博、後藤伸之、秋野裕信：デスクメデトミジン塩酸塩静注液の適正使用への取り組み、第15回医療の質・安全学会、202011

20106003 秋野裕信、寺崎和代、井上歩美、田中裕生子、福井邦博、宇野美雪：患者誤認の背景因子に関する検討、第15回医療の質・安全学会、202011

20106004 寺崎和代、井上歩美、田中裕生子、宇野美雪、福井邦博、中川好美、秋野裕信：指差し呼称キャンペーンの効果と問題点、第15回医療の質・安全学会、202011

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

20106005 秋野裕信：医師と医療安全、第242回日本内科学会北陸地方会、20200906

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

20106006 寺崎和代、井上歩美、田中裕子、宇野美雪、清川真美、中川好美、秋野裕信：指差し呼称キャンペーンの効果と問題点、福井、医療の質・安全を考える会、20210304

20106007 宇野美雪、寺崎和代、井上歩美、田中裕子、清川真美、後藤伸之、秋野裕信：薬剤師による多職種との薬剤適正使用の実践、福井、医療の質・安全を考える会、20210304

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

20106008 秋野裕信：医療事故の発生メカニズムとチーム医療、第10回薬剤師管理者研究会 医療安全公開セミナー、20210308

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研究費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
----	---------	-------	------	------	------	---------

区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
----	------	-----	------	------	------	---------

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
----	-----	-----	------	------	------

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
----	-----	-----	------	------	------

(B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本泌尿器科学会	代議員	秋野 裕信
日本性機能学会	一般会員	秋野 裕信
日本移植学会	一般会員	秋野 裕信
日本内分泌外科学会	一般会員	秋野 裕信
日本泌尿器内視鏡学会	一般会員	秋野 裕信
日本老年泌尿器科学会	一般会員	秋野 裕信
International Continence Society	一般会員	秋野 裕信
日本臨床腎移植学会	一般会員	秋野 裕信
日本排尿機能学会	評議員	秋野 裕信
European Association of Urology	一般会員	秋野 裕信
日本ミニマム創泌尿器 内視鏡外科学会	一般会員	秋野 裕信
American Urological Association	一般会員	秋野 裕信
日本排尿機能学会	理事	秋野 裕信

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名
招待・特別講演等	テルモメディカルセミ ナーin北陸	秋野 裕信
招待・特別講演等	第5回福井、医療の 質・安全を考える会	秋野 裕信

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長(主査)・委員 の別	氏名	査読編数
----------	-------	------------------	----	------

(E) その他